

「石川県ヤングケアラー実態調査」の結果について

調査の目的

ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題であること、本人や家族に自覚がないといった理由から支援が必要であっても表面化しにくいという特徴があることを踏まえ、実態調査により、本県のヤングケアラーの傾向を把握することで、早期発見と適切な支援に向けた体制づくりを促進する

調査の対象・回収数等

1 対象・方法

県内すべての小学校6年生、中学校2年生、高校2年生に、アンケート調査を実施

2 回収数

・小学6年生 9,509人（回収数4,866人、回収率51.2%）

・中学2年生 10,114人（回収数4,294人、回収率42.5%）

・高校2年生 9,552人（回収数3,114人、回収率32.6%）

全体 42.1%

$\left(\frac{\text{回収数 } 12,274\text{人}}{\text{対象数 } 29,175\text{人}} \right)$

3 調査期間

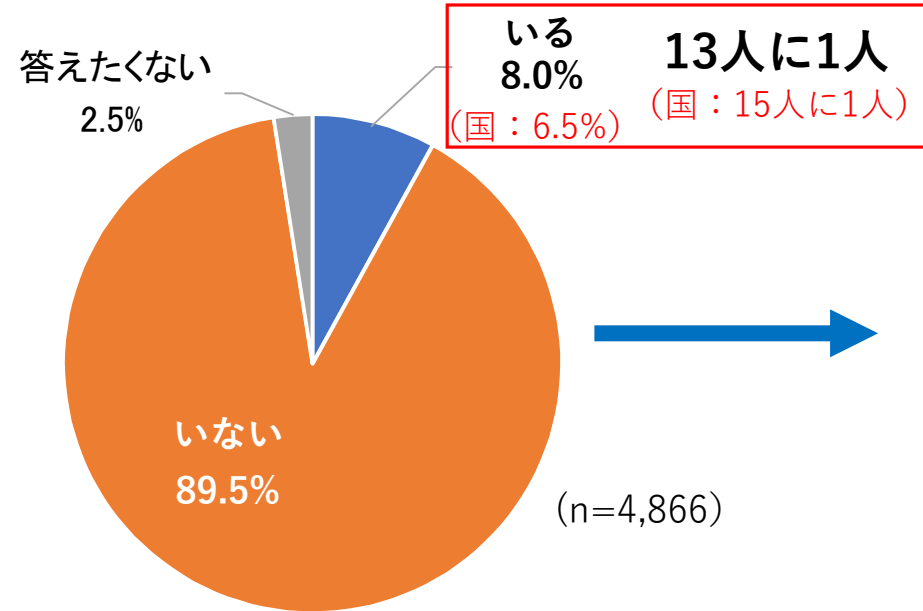
令和4年6月20日から7月20日まで

結果 ポイント①

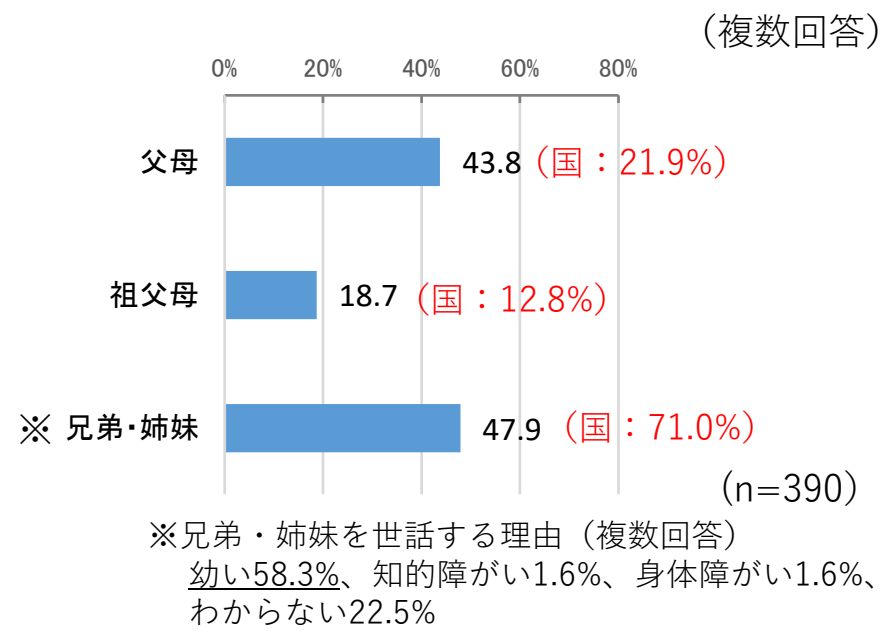
○世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学6年生が8.0%、中学2年生が5.0%、高校2年生が3.2%

小学6年生

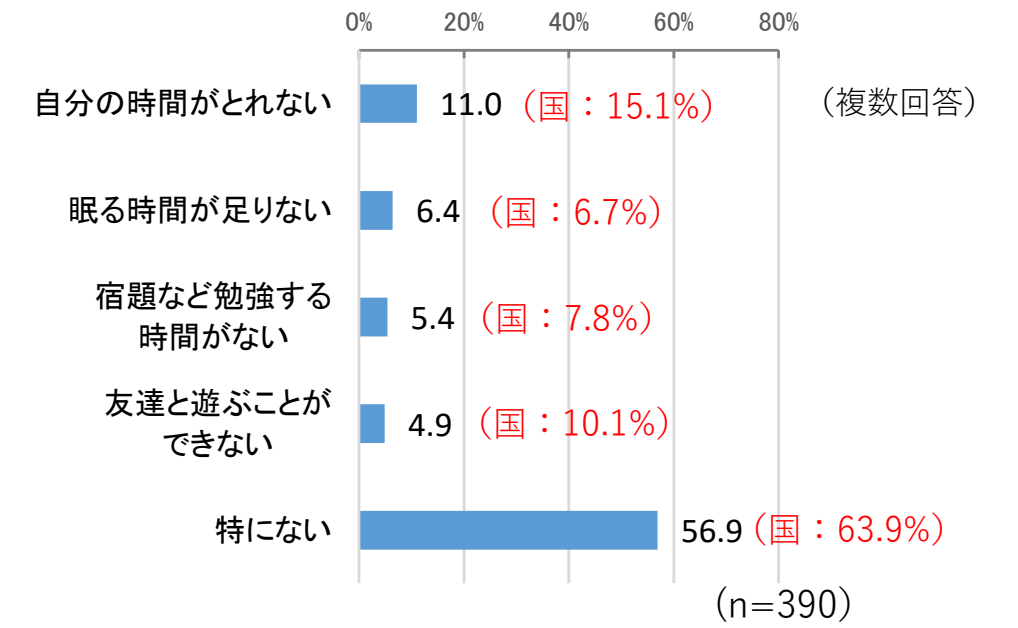
[世話をしている家族の有無]



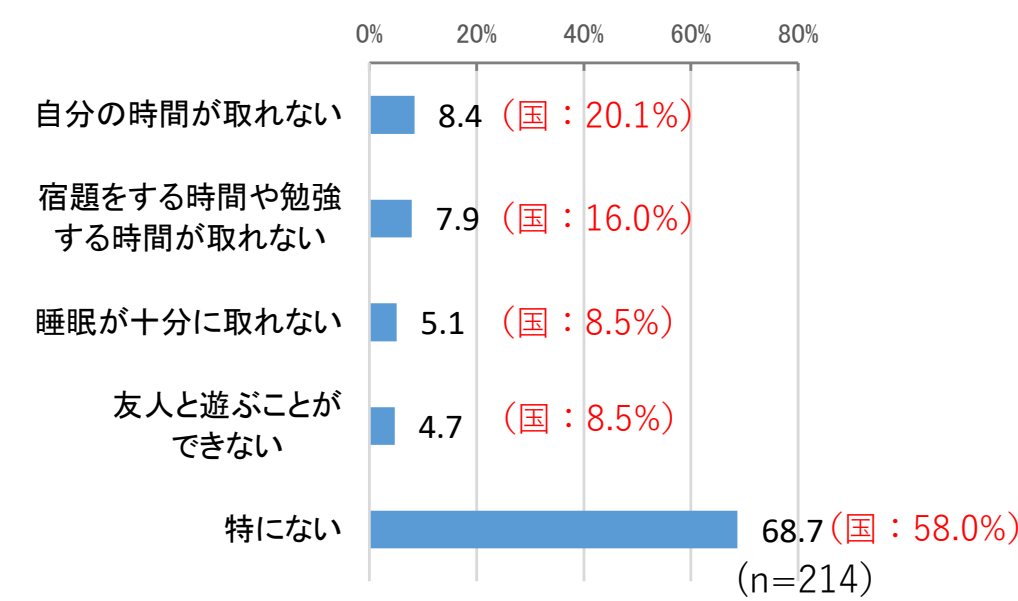
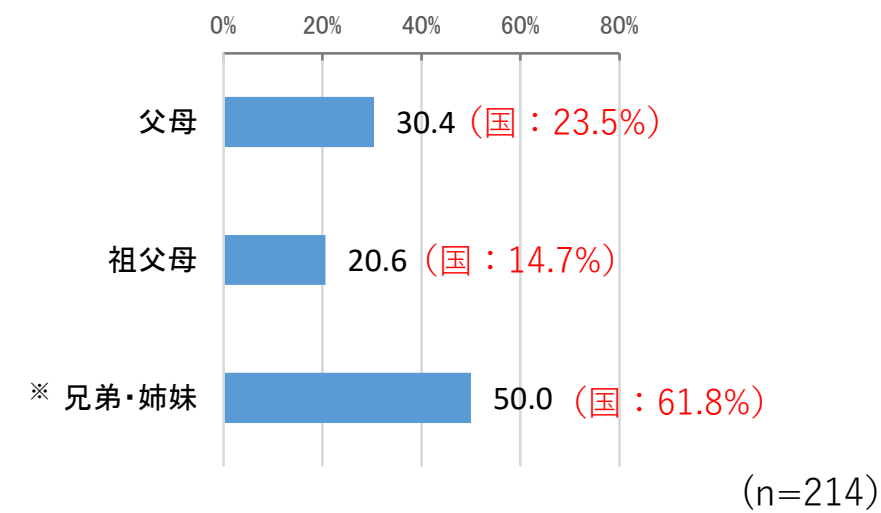
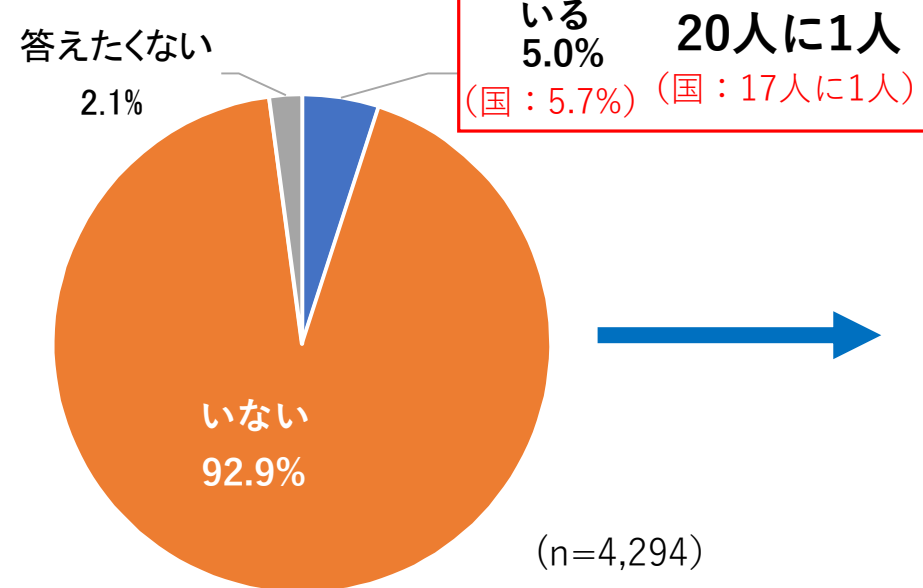
「いる」と答えた人のうち、世話をしている家族の内訳



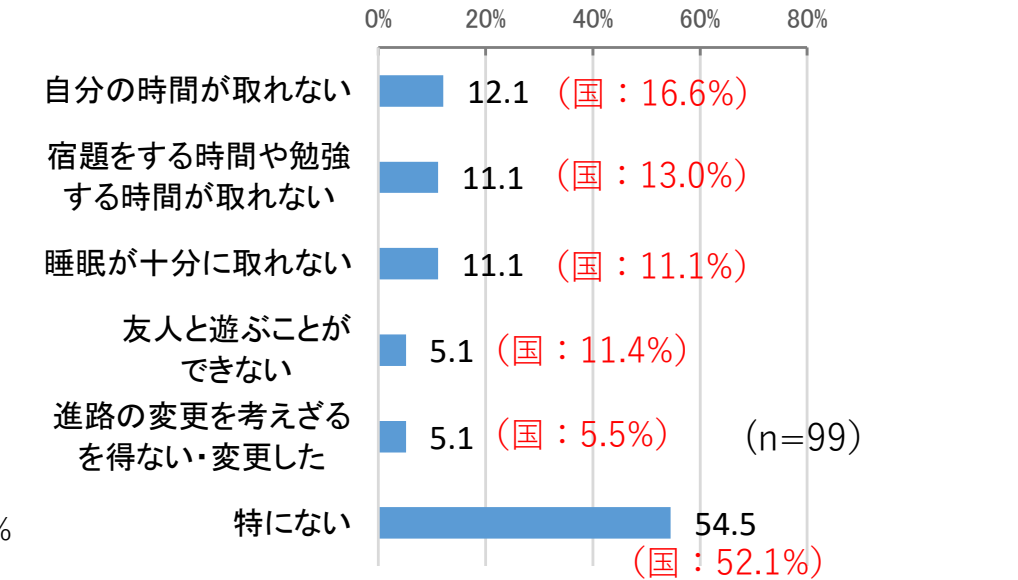
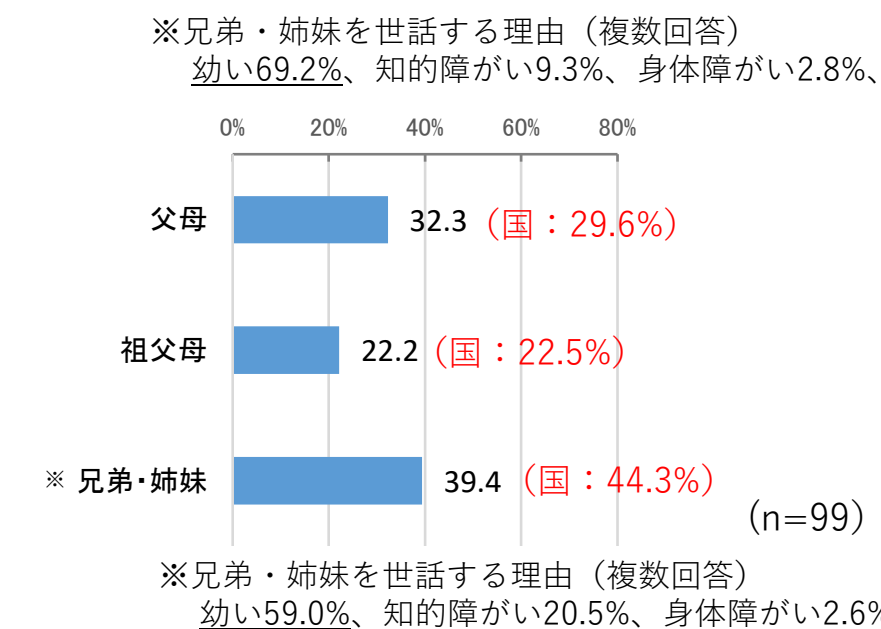
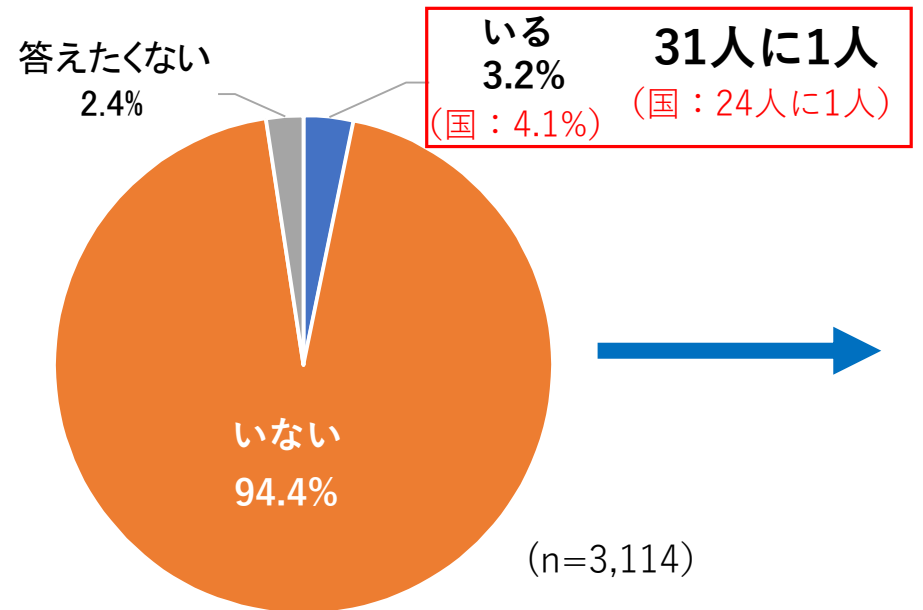
世話をしているために、やりたいけれどできないこと



中学2年生



高校2年生



結果 ポイント②

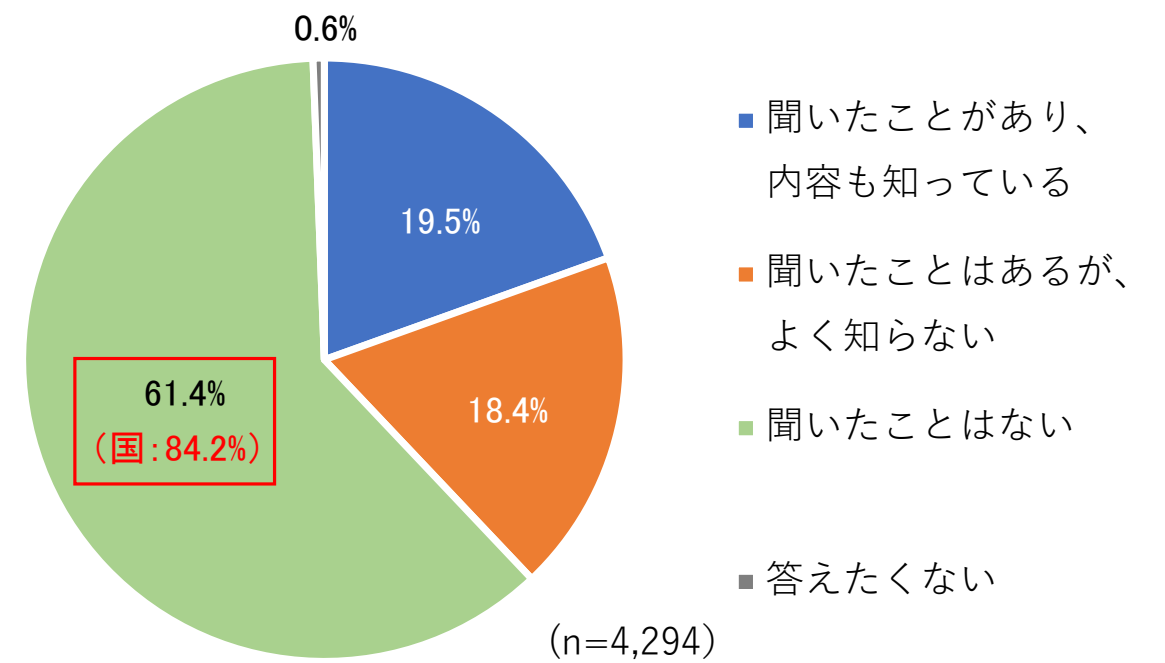
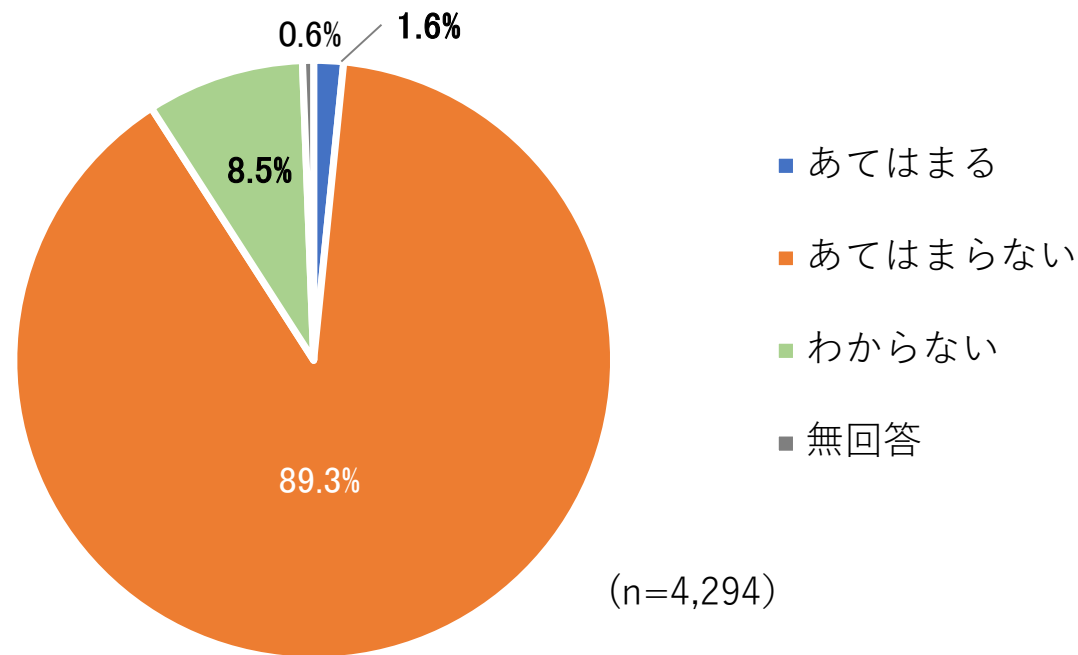
○ヤングケアラーと自覚している子どもは、中学2年生は1.6%
高校2年生は1.4%。「わからない」とした子どもはともに1割弱

○ヤングケアラーの認知度はおおよそ半数程度。「聞いたことはない」と回答したのは、中学2年生は61.4%、高校2年生は49.4%

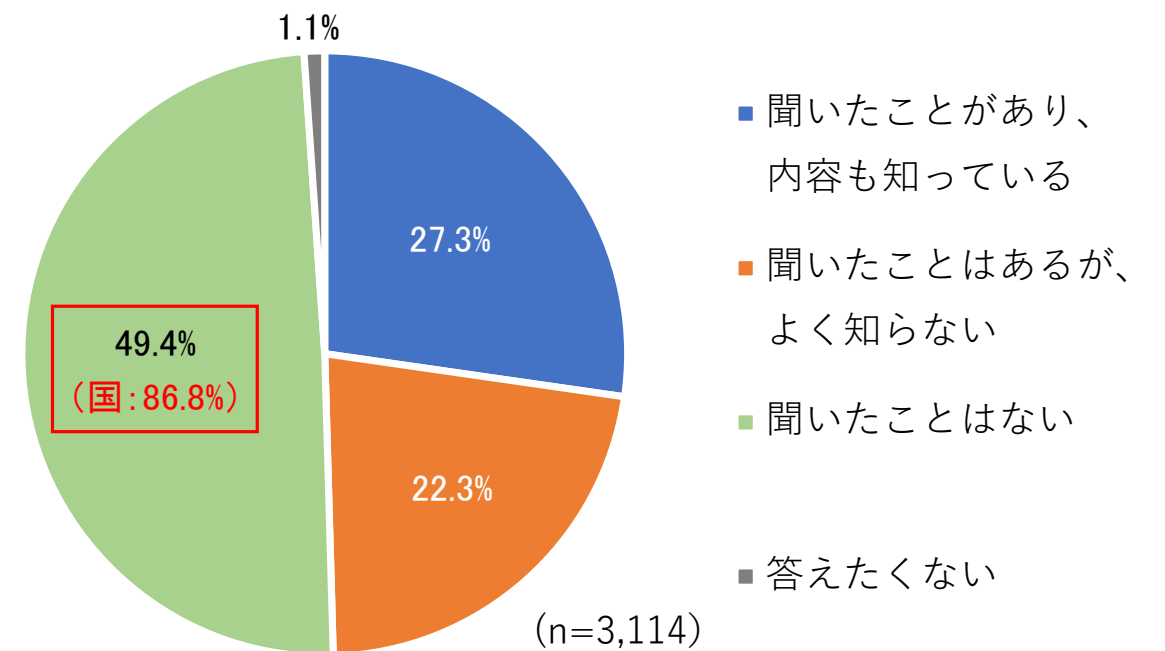
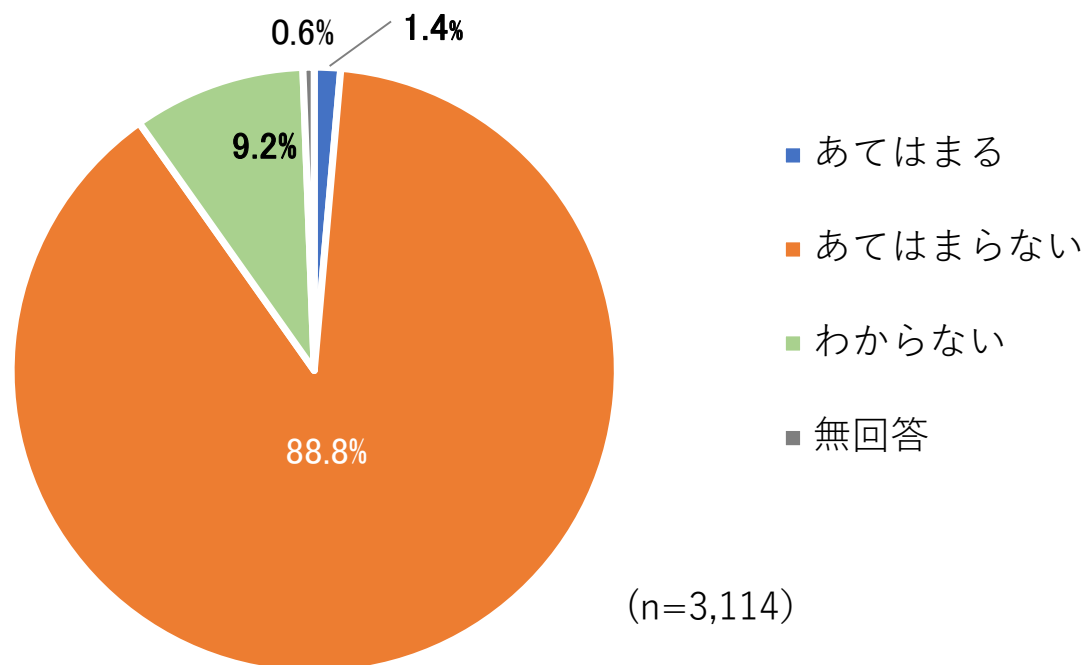
[ヤングケアラーにあてはまるか]

[ヤングケアラーの認知状況]

中学2年生



高校2年生



※ヤングケアラーの自覚度及び認知度については、小学6年生調査では実施していない（国調査と同様）

結果 ポイント③

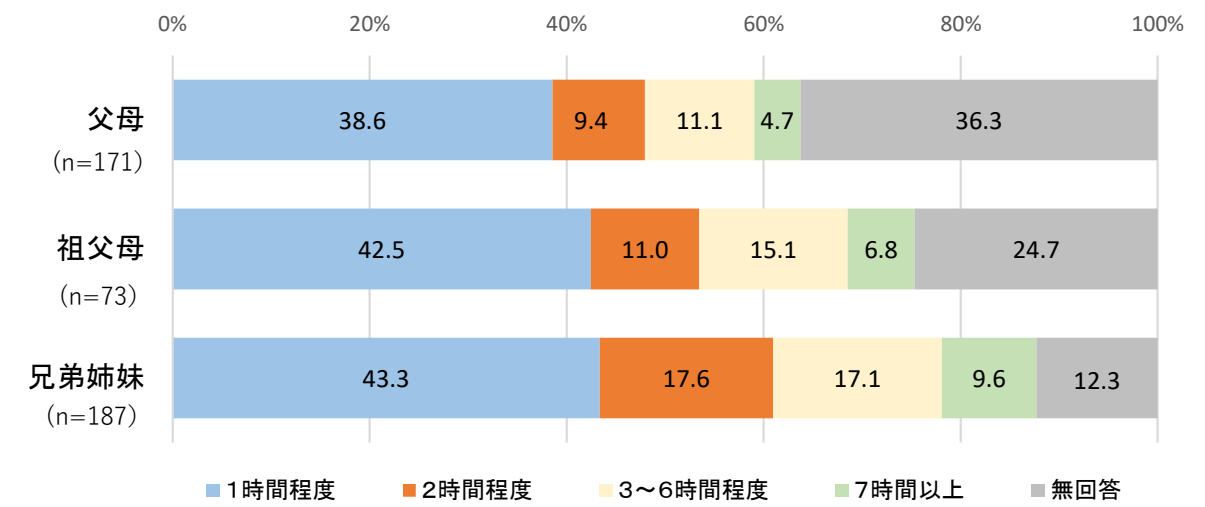
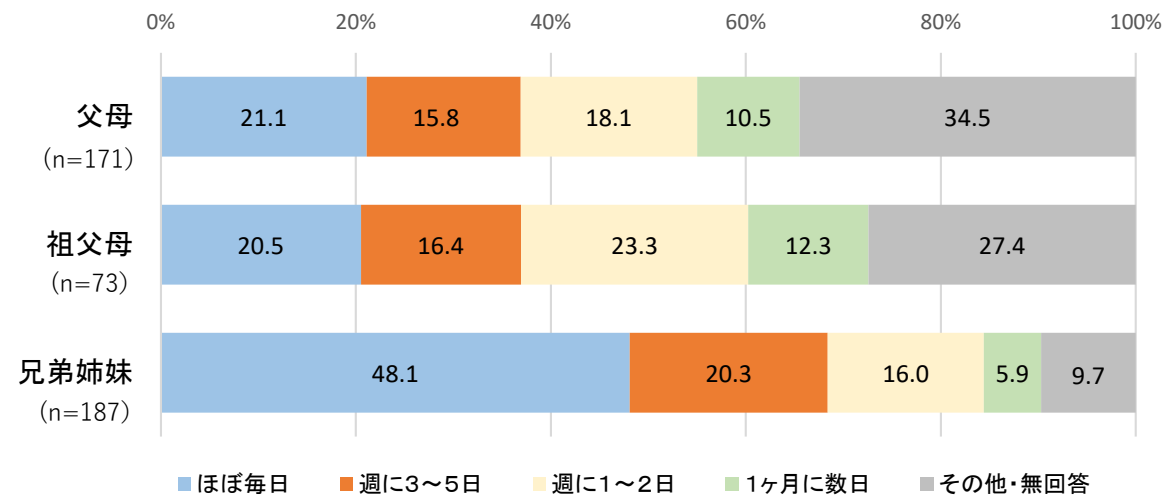
○世話の頻度について、「ほぼ毎日」が2～5割程度となっている。

○平日1日あたりの世話に費やす時間について、「1時間程度」が最も多く、「2時間程度」までで5～6割程度を占めている

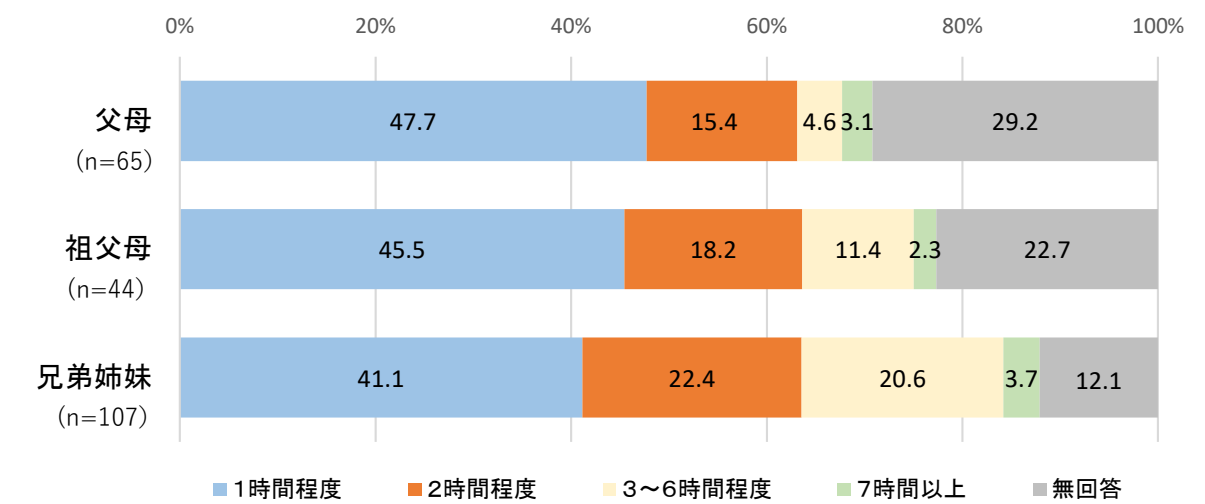
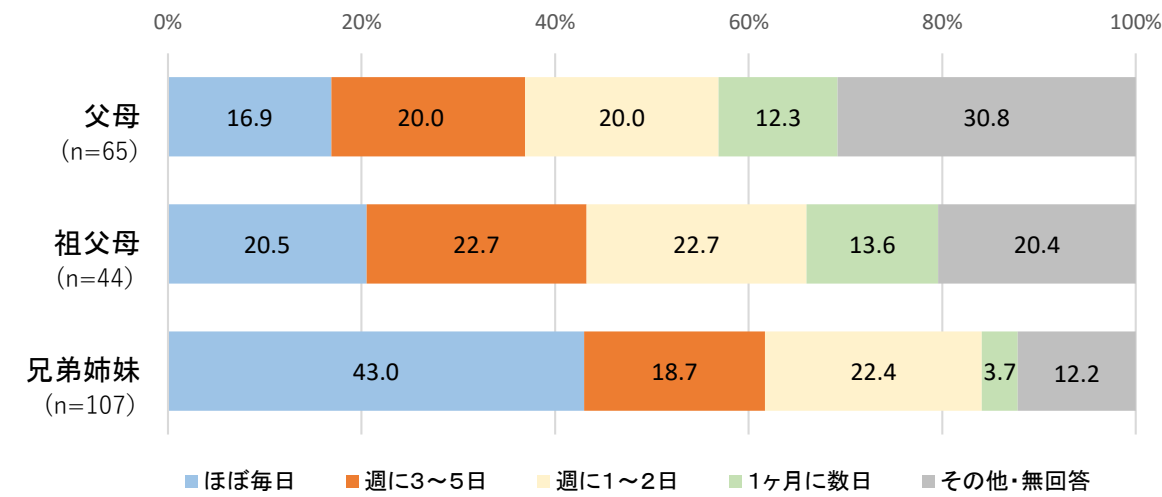
[世話の頻度]

[平日1日あたりの世話に費やす時間]

小学6年生



中学2年生



高校2年生

